

上越市の介護保険料、全国第3位の高額

新潟日報も「負担感が限界」「利用者不在」と批判

「年金収入だけなのに、こんなに高くても払えない」「なんとかしてもらいたい」多くの市民のみなさんから悲鳴があがっている上越市の介護保険料。3月議会で3割もの大幅引き上げを決めたことにより、全国の保険者（市町村、広域連合）のなかで第3位の高さとなったことが厚生労働省の調査で判明しました。たいへん不名誉な記録です。なんとかしなければなりません。

介護保険料は、保険を運営する全国1580の市町村と広域連合が3年ごとに改定します。厚生労働省が3月30日に公表した集計結果によると、2012～2014年度の介護保険料は全国平均で月額4972円になります。これまでの3年間の額と比

べると19・5%増といえます。保険料を引き上げたのは全体の9割以上にあたる1464団体。引き下げは25団体、据え置きは77団体です。保険料の最高は関川村（新潟県）の6680円、最低は北海道の奥尻町と津別町、鹿児島県三島村の2800円で格差は約2・4倍となっています。都道府県レベルの平均では、最高が沖縄県の5880円、最低が栃木県の4409円。新潟県は5634円です。

引き上げに反対したのは

日本共産党議員団の4人だけ

3月議会で市長が提案した介護保険料引き上げに反対したのは、日本共産党議員団だけでした。

反対討論に立った樋口議員は、「市では、要介護認定率が相対的に高いこと、慢性期医療に対応した病床が少なく医療依存度が高い方も介護保険に頼らざるを得ないこと

などが、引き上げの原因だと説明しているが、さらに3割以上も引き上げられるのでは、少ない年金では暮らしていけないというのが多額の市民の声だ」「そもそも介護サービスを提供すれば保険料が上がるという介護

保険そのもののしくみや、国の支出がこの間低く抑えられていくことなど、制度そのものの持つ問題が根本にあり、その点では（市と）認識が一致している。また、市としてもいろいろな形で国に要望している姿も承知している。しかし、もはや国の制度改善を待ってられないような状況ではない。市の独自の施策として、保険料の引き上げを避け、市民の負担をこれ以上重くせず、なおかつ必要な施設整備は行うという姿勢が求められている。その際には、一般会計からの繰り入れを含めて、あらゆる手だてを講じることが必要であり、その努力の姿が見られない提案には賛成できない」とのべました。



キクザキイチゲが咲き始めました。吉川区川崎にて撮影。

こうした介護保険料の状況について、新潟日報も、「創設時に2615円だった上越市の保険料は今回6500円を超えた。わずか12年で負担が2・5倍にも膨らんだのは、当初の制度設計が間違っていたということだ。高齢化が加速し、要介護認定者や介護給付が増えるのは、開始前から分かっていた。保険料値上げでカバーできると考えていたのなら、利用者不在と言わざるを得ない」（3月30日社説）と指摘しています。が、まさにその通りです。「利用者不在」「市民不在」の計画はすぐに正し、保険料の引き下げとサービスの充実を努めることが求められています。

保険料基準額高額保険者（第1位～第10位）

保険者名（都道府県名）	第5期基準額（月額）
関川村（新潟県）	6,680
隠岐広域連合（島根県）	6,550
上越市（新潟県）	6,525
上野村（群馬県）	6,500
嘉麻市（福岡県）	
宮古島市（沖縄県）	6,400
石垣市（沖縄県）	6,352
糸満市（沖縄県）	6,270
豊後大野市（大分県）	6,250
新居浜市（愛媛県）	6,247

三月の天気は変わりやすい。暖かくなったかと思つて喜んだ翌日に雪が降ることもありますし、その逆もあります。今年の三月二十七日は、雪が降った前日は打つて変わって青空の広がる素晴らしい天気になりました。

この日は母の満八八歳の誕生日でした。朝起きて居間に入ると、母はすでにコタツに入つて仕事をしていました。といつても、イモの皮むきです。コタツの脇で新聞紙を広げ、包丁を動かさせていたのです。

作業をするときに手ぬぐいを使って「ほっかむり」する、これは母の習慣です。普段からの恰好をした母を撮らなければと、カメラを向けたところ、「ほっかむりしているがなんか撮るなや」と言います。でも、まあ、しようがないかという気持ちでどこかにあつたのでしよう、母は手を休めて顔を向けてくれました。

私はこの日、母の故郷である大島区でビラ配布をすることになっていました。出かける時、母は、コタツの上にあつた、ゆでたアピオス（北アメリカ原産のイモ）を小さなビニール袋に入れて渡してくれました。イモのなかでもアピオスは栗と間違えそうになるほどほくほく感があつて、美味しい。本当は従兄たちへの土産にと思つていたので、車の中でほとんど食べてしまいました。

大島区の大島へ入った時、楽しみにしていたことのひとつは、母の同級生である留一さんと会うことでした。まだ一度も会つたことのない人ですが、同級会の連絡や母への手紙を読ませてもらつていました。幹事役として同級生にたいする親しみを込めた文章を書く。同級会参加者へは様々な情報提供もする。やることなすこと、すべて気配りが行き届いていて、この人は一体どんな人なのか、機会があれば一度会つて話をしてみたいと思つていたので。

留一さんはこの日、大島に来ておられました。留一さんと同じ旭地区出身のMさん宅へビラを持っていった時、「さっきまで一緒にお茶のみしていたんだよ」と言われたときはうれしかったですね。ワクワクして自宅へ足を運びました。ところが、わずかの時間差ですれ違いとなつてしまつたようです。玄関には「留守にしているのです、用がある人は〇〇さん宅へ連絡してください」と張り紙がしてあり、会うことができませんでした。もし会うことができなければ、母にいい土産話ができただけなのに、とても残念でした。

この日、大島区でのビラ配布を終えたのは午後七時近くになっていました。朝の段階では、母に何かプレゼントをしようと思つていたのですが、途中ですっかり忘れてしまつていました。再び思い出したのは、浦川原区の中猪子田あたりです。

もう、じっくりと考えている余裕はありません。ショッピングセンターに立ち寄り、紫色の小さな花がいっぱい咲いている鉢を買いました。価格は三百数十円。プレゼントにするにはあまりにも安すぎるような気もしましたが、他に母が喜びそうなものは見当たりませんでした。

家に着いてから、コタツの上にこの花の鉢を置き、「はい、これ、おまんの誕生日の祝いだよ」と言うとうと、母は細い眼をさらに細くして「ありがとう」と言ってくれました。続いて、「これ、高かったんだらう」と心配して訊くので、「なして、なして、たいした値段じゃないよ」と言いましたが、鉢の脇を見たら、値札が貼つてあるじゃありませんか。あわてて、ビリっとはぎ取りました。いやー、あぶなかつた。

台風並みの暴風により被害続出

3日から4日にかけての強風により市内各地で被害が出ました。4日の午後4時現在で、軽傷者6人、建物などの被害326件となつていましたが、その後も被害は増えている模様です。私は4日の午前8時過ぎから吉川区、柿崎区、大潟区、大島区、浦川原区の被害状況を視察してきました。

目立ったのは建物の屋根がはがされたケースです。吉川区原之町、大島区下岡、柿崎小学校体育館わきの建物では、トタンが吹き飛ばされていきました。原之町のケースでは屋根板までやられていました。浦川原区では車庫が持ち上げられ、傾いたものもありました。



写真上は吉川区原之町の住宅。下は浦川原区桜島の車庫。いずれも橋爪が撮影。

新聞などでほとんど報道されていませんが、農業用ハウスも大きな被害をこうむりました。吉川区小苗代、六万部、田尻、西野島、柿崎区上直海、大潟区内雁子などで大きな被害が出ています。稲作農家やトマト栽培農家の中には、強風が吹き始めてから夜を徹してハウスを守っていた人もいました。

立木や工作物が電線、光ケーブルなどを切断するケースがあちこちでありました。柿崎区ではセーブオンの工作物が電線にのっかかりました。大潟区の内雁子では大きなポプラが倒れ、電柱も折れました。

被害を受けられましたみなさんには心からお見舞い申し上げます。

介護保険料引き下げのために一般財源繰り入れは可能

3月議会の一般質問で日本共産党の平良木議員は、「上越市は介護保険料引き下げのために一般財源からの繰り入れは法律で禁止されているが、法にそのような規定はない。国から市町村への繰り入れるなという指導も参院厚生労働委員会の議論では『あくまで市町村にたいする助言』であることことは明らかだ」と指摘しましたが、上越市の幹部はこれに反論できませんでした。